

(12)非常勤講師等

① 非常勤講師

ア 大学院学校教育研究科

授業科目名	担当時間数
スラブ文化事情	30
社会教育計画A	32
社会教育計画B	32
社会教育演習 I	30
社会教育演習 II	30
教育学	30
総合・生活科指導法B	8
総合・生活科指導法B(免P)	8
情報科指導法(授業論)	30
総合・生活B	10
総合・生活B(免P)	10
生涯学習概論B	30
人権・同和教育	32
教育と法規	30
教育本質論	32
発達心理学	32
児童心理学	30
心理学概論	30
保育・表現の指導法	15
保育・健康の指導法	30
家庭の教育と育児	10
子どもの福祉	30
社会福祉 I	30
社会福祉 II	30
養護内容	30
保育者論	30
漢文学講読	30
中等国語科指導法(授業論)	30
国語学講読C	30
国語学演習C	30
国文学演習A	30
国文学演習B	32
コミュニケーション英語B II (Bグループ)	32
コミュニケーション英語B II (Cグループ)	32
コミュニケーション英語C I (Aグループ)	32
コミュニケーション英語C I (Cグループ)	32
コミュニケーション英語C II (Aグループ)	32
コミュニケーション英語C II (Dグループ)	32
英文学演習	30
英語文化圏文学	30
比較文化	30
英語学概論	30
中等英語科指導法(授業論)	30
哲学概説	30
政治学概説	30
社会学概説	30
ヨーロッパ史認識論	32
人文地理学概説	30
人文地理研究	30
算数(免P)	32
数学的経験と学習過程	10
数学科指導法	10
計算機数学演習	16
算数科指導法	16
理科教育学	30
音楽	62
独唱Ⅲ・日本音楽B(日本の伝統的な歌唱を含む。)	32
合奏B・日本音楽A I	32
木工表現(木工)	30
美術史論	30
造形基礎B	7.5
造形基礎D	7.5
工芸科指導法(課程論)	30
体育	24
金属加工法	30
電気工学概論	32
電気工学実験実習	30
被服学	15
住居学(製図を含む。)	10
調理の理論と実習	90
家庭電気・機械・情報	15
学校図書館メディアの構成	30

イ 学校教育学部

授業科目名	担当時間数
いのち教育論	26
教科内容構成特論「総合的な学習の時間」	10
持続発展教育と地球環境問題特論	30
総合学習特論	30
心理教育的アセスメント演習	30
発達心理学特論	32
心身医学特論	30
視覚障害心理・生理学論	30
発達障害教育総論	15
国語学演習C	30
国文学特論A	30
国文学演習B	32
英語学演習	30
指揮法研究	16
複合造形研究	30
木工芸研究	60
金属加工学特論	30
住居学特論	30
教育課程行政特論	30

② 教員養成実地指導講師

ア 教職に関する科目（教育実習の事前及び事後指導に関するものは除く。）

授業科目名	授業の趣旨・概要	担当時間数
教育課程論A (総合的学習を含む。)	総合的な学習の時間を指導する際、教員志望者に求められる、必要不可欠な知識・技能の基礎的な研究、研究方法を、豊富な事例をもとに習得する。	4
総合・生活科指導法A	生活科及び総合的な学習について、教育実習に必要な知識・技能を提供する。	8
総合・生活科指導法B	総合・生活科指導法の実践的指導力の基礎の質的充実のため。	8
学習場面臨床学	子どもの学びの成り立ち・過程と、そこにおける教師の関わりについて実践的に理解する。子どもの学びの場面に実際に臨みながら、その成り立ちと過程を観察し、子どもの学びの論理をとらえるための基礎的な実習を行なう。	4
特別支援教育基礎 (介護等体験の指導内容を含む)	特別支援教育の理念と実際についての基礎的事項及び介護等体験の理念と体験を実施する特別支援学校や社会福祉サービスの現状について理解を深める。	6
障害児保育	様々な障害について理解するとともに、障害のある幼児の保育の実際、保護者への支援等、障害児保育に関する基礎的な知識を得る。	10
初等国語科指導法	小学校の国語科教材の見方・扱い方について実践的な立場から説述する。	6
中等国語科指導法（課程論）	中学校の国語科授業におけるカリキュラム開発について実践的な立場から説述する。	2
初等社会科指導法	社会科の特質を理論的かつ実践的にとらえ、小学校社会科教育実践のための基礎的かつ具体的な理解を得ることを目標とする。	6
算数科指導法	算数的活動を中心に据えた算数の指導展開の実際 算数的活動を中心に据えた算数指導の評価の実際 算数的活動を中心に据えた算数の授業構成と展開の実際	12
数学科指導法	問題解決の立場に立つ数学の授業構成と展開の実際 「数学的活動」を中心に据えた数学の指導と評価の実際	6
数学学習課程論	数学的内容に対する生徒の理解を促す活動や課題の検討	8
初等音楽科指導法	「特別活動」での音楽劇の実践事例をもとに、題材の想起、構成、実践など教員に必要な資質・能力について 「生活科」で子どもが動物飼育から感じ取った感情を歌にする活動から子どもの感性が育まれる学習原理について 器楽合奏での思考活動にタブレット端末を導入した実践について、その意義と子どもの表現意欲の高まりについて 「総合的な学習の時間」に取り組んだ郷土の学習テーマを、音楽づくりの題材にした事例について	10
中等音楽科指導法 (実践応用論)	中等音楽科指導法について主として実践力の向上をめざす。 学校教育現場における中学校音楽科の授業の実際	4
図画工作科指導法	図画工作科の教科とその指導について、実践的立場から演習を行う。	18
初等体育科指導法	現場実践を踏まえた授業補助	8
初等家庭科指導法	教育現場における小学校家庭科の指導について教授すると共に、教育現場管理職の視点から家庭科指導法への提言を行う。	8

※教育実習の事前及び事後指導に関するものは除く。

イ 教科に関する科目

授業科目名	授業の趣旨・概要	担当時間数
総合・生活A	生活科・総合的な学習の実際について、基礎的知識を提供する。	2
総合・生活B	生活科・総合的な学習の時間を指導する際、教員に求められる、必要不可欠な知識・技能の基礎的な研究、研究方法を習得する。 生活科・総合的な学習の時間を指導する際、教員志望者に求められる、必要不可欠な知識・技能の基礎的な研究、研究方法を、豊富な事例をもとに習得する。	12
家庭の教育と育児	乳幼児の教育・保育について実践的な理解を深める。特に3歳未満児の教育・保育を対象とする。	8
実践セミナー「家庭」	小学校家庭科の教育現場における授業について、紹介、指導、助言を行う。	6

ウ 教育実習の事前及び事後指導に関する科目

授業科目名	授業の趣旨・概要	担当時間数
保育実習指導Ⅰ	保育所実習に必要な乳幼児の保育について実践的な理解を深める。	4
保育実習指導Ⅱ	知的障害者施設の実態と具体的な支援法の理解を図る。 児童養護施設の実態と具体的な支援法の理解を図る。	4
保育実習指導Ⅲ	保育所実習に必要な乳幼児の保育について実践的な理解を深める。	8
保育実習指導Ⅳ	療育施設の実態と具体的な支援法の理解を図る。	2
介護等体験（社会福祉施設）事前指導（学部・免P）	教員免許状を取得するには、介護体験を行わなければならない。1年次に特別支援学校2日間及び2年次に社会福祉施設5日間の計7日間の介護等体験を実施する。	2
教育実地研究Ⅱ（授業基礎研究）	教育実習に向けての授業の質的充実のため	86

③ ティーチングアシスタント

修士課程学生

授業科目名	授業担当教員	学期	曜日 時限	担当時間数
体験学習・共通	五百川裕 他	通年	不定期	20 時間
体験学習・C	五百川裕 他	通年	不定期	20 時間
体験学習・E	東原貴志 他	通年	不定期	20 時間
体験学習・F	五十嵐史帆 他	通年	不定期	20 時間
体験学習・G	榊原潔	前期	不定期	20 時間
体験学習・J	長谷川正規 他	通年	不定期	20 時間
生活の中の科学	黎子椰	後期	金 5	15 時間
プログラミング教育基礎演習	大森康正 他	前期	集中	27 時間
教養スポーツA	土田了輔 他	前期	水 2	30 時間
教養スポーツB	土田了輔 他	前期	水 2	30 時間
教養スポーツC	土田了輔 他	前期	木 2	30 時間
教養スポーツD	土田了輔 他	前期	木 2	30 時間
ウォータースポーツ	松浦亮太	前期	集中	30 時間
スノースポーツ	市川真澄 他	後期	集中	30 時間
ボールゲーム	榊原潔, 土田了輔	後期	金 2	14 時間
中国語・中国事情	黎子椰	前期	月 3	30 時間
保育・表現の指導法	阿部靖子	後期	金 2	15 時間
教育情報演習A	井上久祥	後期	火 2	30 時間
教育情報演習B	大森康正	後期	金 3	30 時間
教育情報演習C	高野浩志	後期	月 3	30 時間
教育情報演習D	石川真	後期	木 2	30 時間
表現・相互行為教育演習	松本健義 他	前期	火 1	30 時間
表現・状況的教育方法演習A B	林田秀一 他	後期	月 5	30 時間
表現・状況的教育方法演習C D	城間祥子 他	後期	月 5	30 時間
音楽	長谷川正規 他	通年	木 3	80 時間
図画工作A	洞谷亜里佐 他	前期	金 3	30 時間
図画工作B	洞谷亜里佐 他	前期	木 1	30 時間
図画工作C	洞谷亜里佐 他	前期	火 3	30 時間
図画工作D	洞谷亜里佐 他	前期	木 4	30 時間
体育	竹野欽昭 他	前期	火 4	90 時間
算数科指導法A B	高橋等	前期	木 2	15 時間
算数科指導法C D	高橋等	前期	火 2	15 時間
初等音楽科指導法A B	尾崎祐司, 時得紀子	前期	月 2	30 時間
初等音楽科指導法C D	尾崎祐司, 時得紀子	前期	木 2	30 時間

授業科目名	授業担当教員	学期	曜日 時限	担当時間数	
図画工作科指導法A B	阿部靖子, 五十嵐史帆	前期	火 3	30	時間
図画工作科指導法C D	阿部靖子, 五十嵐史帆	前期	木 1	30	時間
初等体育科指導法A	周東和好 他	前期	月 1	30	時間
初等体育科指導法D	周東和好 他	前期	水 1	30	時間
初等家庭科指導法	佐藤ゆかり 他	前期	火 1	15	時間
コミュニケーション英語A I	大場浩正	前期	水, 木, 金 2	90	時間
ゴルフ	市川真澄 他	前期	集中	30	時間
野外運動 (スノースポーツ)	市川真澄 他	後期	集中	30	時間
栽培法	山崎貞登	前期	木 3	30	時間
保育学実習	吉澤千夏	通年	集中	30	時間
被服製作の理論と実習	佐藤悦子	後期 (後半)	火3. 4. 5	30	時間
木材機械加工法	東原貴志	後期	月 4	30	時間
身体表現の基礎	榊原潔, 大橋奈希左	前期	金 2	30	時間
造形基礎A C	安部泰 他	前期	月 5	30	時間
指揮法	長谷川正規	前期	木 5	30	時間
地学実験	濤崎智佳	前期	月4. 5	30	時間
計算機数学演習	林田秀一	後期	木 4	30	時間
地理学野外実験	山縣耕太郎 他	前期	集中	30	時間
書写書道 I	押木秀樹	後期	月 3	30	時間
カウンセリング基礎演習	近藤孝司	後期	水 2	30	時間
心理学実験	越良子	後期	木3. 4	30	時間
書写書道 II	押木秀樹	前期	月 3	30	時間
生物学実験	中村雅彦, 谷友和	後期	木4. 5	30	時間
造形基礎B D	松尾大介 他	前期	月 4	15	時間
球技	榊原潔, 土田了輔	後期	火 4	30	時間
機械工学実習	黎子椰	後期	木 4	30	時間
木材手工具加工法	東原貴志	前期	木 5	30	時間
体操・器械運動	周東和好	後期	水 2	30	時間
物理学実験	定本嘉郎, 小川佳宏	後期	月3. 4	30	時間
伝統絵画表現と鑑賞	洞谷亜里佐, 伊藤将和	後期	火 5	9	時間

博士課程学生

授業科目名	授業担当教員	学期	曜日 時限	担当時間数	
発達障害教育臨床実習	池田吉史	通年	不定期	74	時間
発達障害応用教育臨床実習	池田吉史	通年	不定期	65	時間
世界史専門セミナー I	下里俊行	通年	月 5	27	時間
世界史研究セミナー I	下里俊行	通年	火 1	27	時間
意味生成表現と教材開発	松尾大介	前期	月 5	10	時間
実材研究	松尾大介	後期	火1.2	20	時間
彫刻表現 I	松尾大介	後期	木 5	20	時間
塑造研究 I	松尾大介	前期	金1.2	20	時間
機械工学実験実習	黎子椰	後期	月 5	20	時間

④ ティーチング・サポーター
修士課程学生

授業科目名	授業担当教員	学期	曜日 時限	担当時間数
国語（書写を含む。）	押木秀樹 他	前期	金1 一部集中	30 時間
社会	山縣耕太郎 他	前期	火5	30 時間
理科	定本嘉郎 他	後期	月2	30 時間
音楽	平野俊介 他	通年	月6	12 時間
図画工作	洞谷亜里佐 他	前期	木6	60 時間
体育	松浦亮太 他	通年	前期集中 後期火5	45 時間
家庭	光永伸一郎 他	前期	月2	30 時間
初等道德教育論	林泰成, 早川裕隆	後期	木1	30 時間
中等道德教育論	林泰成, 早川裕隆	後期	火1	30 時間
初等特別活動論	高橋知己	前期	木2	30 時間
中等特別活動論	高橋知己	前期	金1	30 時間
算数科指導法	布川和彦	後期	水6 一部集中	30 時間
初等音楽科指導法	尾崎祐司, 時得紀子	前期	火2	30 時間
図画工作科指導法	阿部靖子, 五十嵐史帆	後期	木6	30 時間
初等体育科指導法B	周東和好 他	前期	月1	30 時間
初等体育科指導法C	周東和好 他	前期	水1	30 時間
初等家庭科指導法	佐藤ゆかり 他	前期	木6	30 時間
初等生徒指導論	安藤知子, 稲垣応顕	後期	月1	15 時間
中等生徒指導論	安藤知子, 稲垣応顕	後期	月1	15 時間
教育相談・カウンセリング論	宮下敏恵 他	後期	木2	30 時間
初等キャリア教育論	山田智之	後期	月1	15 時間
中等進路指導・キャリア教育論	山田智之	後期	月1	15 時間
日本国憲法	小島伸之	後期	水1	30 時間

⑤ リサーチ・アシスタント

任用期間	研究補助業務 担当時間数	研究プロジェクト等名	左の中心的組織名	研究プロジェクト 代表者
平成29年6月1日 ～平成29年11月30日	163.5時間	保幼小連携音楽プログラムの開発 —9年間を通じた音楽的リテラシーの育成をめざして—	芸術系教育連合講座	時得 紀子 教授